中央支所リポート⑧ 菊陽発見！！

５年未満の職員が、地域や農業、農協について興味・疑問・不思議など「何これ？」と思ったことをリポートします。

今月のリポーターは、
菊陽中央支所営農課農産係の**川﨑寛待**さんです。

［自己紹介］
入組2年目、農産を担当しています。菊陽町在住。社会人サッカーチームで、サッカーをすることと、友達と出かけることが楽しみです。リポーターに抜擢され、自分が生まれた菊陽町のことを再発見したいと思います。

注目を集める菊陽町

菊陽町は近年、さまざまな分野で注目を集めています。人口増加率が全国トップクラスであり、阿蘇くまもと空港、JRのアクセスも進み、世界でも有数の最先端企業等の立地が進んでいます。豊富な地下水が評価されています。白川中流域の豊かな水と肥沃な土壌は、多様な農畜産物を育てています。中でも、国から産地指定を受けているニンジンは、その品質に高い評価を受け、全国各地に出荷されています。そんな菊陽町が誇る宝物を発見!探ってみました。

菊陽の宝物「鼻ぐり井手」地域活性化の場に!

「鼻ぐり井手」って?

加藤清正が江戸時代に、白川左岸の荒れた畑を見て「ここを水田にし、稲作ができるようになれば領民の暮らしが楽になり、税金も増えて肥後領国が豊かになる」と、願いを込めて造ったのが用水路「馬場楠井手」（農業・生活用の水路）です。その取水口から約2Km下流に、水底に溜まる土砂を流すための、スゴイ仕掛けが作られています。その仕掛けが牛の鼻ぐりに似てるとして、その井手は「鼻ぐり井手」と呼ばれています。

井手の底まで約20m、岩盤を人の力だけで掘り下げて作ってあるのです。その水路にはいくつもの工夫があり、驚くことばかりです。鼻ぐりがよく見えるところには公園が整備され、レプリカや資料も設置してあります。ぜひ、一度足を運んで実際に見られてみてください。詳しく知りたいときは、ガイドさんを頼めば説明していただけるそうです。

＊「馬場楠井手」は、菊陽町馬場楠の白川取水口から12Km先の熊本市大江渡鹿までの田畑に水を送るための水路で、加藤清正公が熊本を治めていた慶長13年（1608）この井手のおかげで、当時の9つの村の約95haものひろい地域に水が行き渡り、収穫高がそれまでの約3倍になったそうです。

ボランティアガイドの会の
矢野さんに話を聞きました

鼻ぐり資料

400年祭から始まった「鼻ぐり井手祭」

更に詳しく知るために、菊陽町文化財ボランティアガイドの会の矢野誠也さんを訪ねました。平成20年、鼻ぐり井手400年記念に「鼻ぐり井手祭」を行ったところ、大変盛り上がり地域住民の繋がりが深まったそうです。それから毎年祭りを行い、県内外からも見学者が増え、地域活性化の場になっているということです。また、次世代にも伝えたいと矢野さんは、菊陽南小学校の3・4年生を対象に「こどもガイド養成講座」を6・7・9月の3回開き、鼻ぐり井手を中心に、地域の文化財のことを伝えています。祭りの日（11月）が子どもたちの発表の場となり、ますます盛り上がっているそうです。

加藤清正公の
鼻ぐり井手公園

鼻ぐりの仕掛けレプリカ